指宿地域の城跡～原田城について～

南九州城郭談話会　上田耕

1．はじめに

指宿市では、これまで原田城は台地縁辺の金比羅神社のある小さな城跡で、空堀らしき古道と小規模な曲輪がある。これまで金比羅神社を曲輪の一郭として、古道を空堀の遺構の一部として認識していたらしい。

それにしても旧郷土誌や文献でも平姓指宿氏の原田氏に由縁のある城郭でもあり、どうもこの琴平神社一帯について、城跡にしてはこれだけとは腑に落ちない。ところが、金比羅神社の背後に高い丘陵が聳え立っていることが気になって、数日後、指宿市を再び訪れ山頂をめざした。巨木のある雑木林の中に立ち入ると、そこには腰曲輪が目の前に現れ、複数の段や切岸が築かれ、空堀や土塁など見事な遺構が残存していて驚いた。気分は一挙に高揚した。

外敵に対しての戦略的な防備が備えられているようだった。山林の隙間からは指宿市の街や錦江湾を一望に見渡せた。改めて時遊館 COCCO はしむれの中摩浩太郎氏に良好な城郭遺構の存在を伝えた。

ここでは現地踏査における城郭の縄張図を作成し、構成及び歴史における城郭主体者などを検討してみたい。

2．指宿と原田城跡の歴史について（概要）

中世の指宿は、薩摩国建久図伝帳などによると今日の指宿市域に含まれ、府領社開聞宮（現開聞神社）と公領からなり、社領・公領の下司・郡司は指宿忠元・忠秀で、公領の地頭は島津忠久であった。

原田名については現在の指宿市十二町に小字原田の地名が残っていることから、この地に比定されている。

永仁７年（1299）３月 19 日の平忠俊沙汰状案（禰寝文書）に「亡父忠行売地秋久名」とみえ秋久名は原田名とも号していた。原田名は平安末期以降指宿氏の支族原田氏の所領として相伝され、文書が禰寝文書のうちに残る。

五味克夫「指宿支族原田氏について」鹿大史学第 13 号昭和 40 年 11 月に詳しく、鎌倉時代の弘安８年（1285）～永仁６年（1298）に至る間、異国警固番役に、原田四郎（忠俊）という人物が勤仕したとされる。

忠俊は、指宿氏の代官としてではなく御家人の一人として出向している。弘安７年（1284）２月その相伝の所領、原田名（秋久名）を分割して子に配分している。代々原田氏は、この地を支配していた。

指宿氏本宗の揖宿郡司平姓揖宿彦次郎忠篤は、鎌倉時代末期鎮西探題北条英時、討伐にも参加して武名をあげているが、南北朝期は、薩南、南党の雄として北党島津氏らの軍と連戦奮斗の生涯であった（五味 1965）。

延元２年（1337～1340）指宿文書には、指宿一族合戦討死手負注文手負い分として原田彦五郎などの名前がみられる。忠俊以後の子孫の出来事である。懐良親

王の家臣三条泰季が薩摩に上陸すると以後は南朝方として活動し、このころ指宿氏の居城は松尾城（指宿城）であったと考えられている（三木 1998）。この時期には「指宿郡度々の合戦」とあり、郡内で戦があったことが分かる。

永徳元年（1381）大隅守護島津氏久（玄久）より揖宿郡は頴娃氏に宛行われている。室町時代の応永 19 年（1412）8 月 23 日の島津久豊宛行状（『旧記雑録』）によると「指宿之内原田八丁」が禰寝清息に宛行われている。松尾城（指宿城）をはじめとした郡内は応永 18 年（1411）には奈良美作守が入城したが、応永 25（1469）年には島津久豊に攻められ敗れ（「山田聖栄自記」）、応永 27 年（1471）再び頴娃氏に与えられ、肝付兼政が頴娃城を築き、山川・指宿を領することとなった（「伴姓頴娃氏正統系図」）

永享 7 年（1435）には守護島津忠国が禰寝直清に料所として指宿院内を与え、応永元年（1476）以前には忠国の子の喜入頼久が指宿を領して指宿城を居所としている。文明 6 年（1474）、豊州家島津忠康が城主であったが、守護島津忠昌方の頴娃氏、禰寝氏らと合戦して敗れた（『地誌備考』）。

頼久は復帰したが、（『本藩人物誌』）、大永 5 年（1525）、その後の室町時代には、島津貴久の庇護を受けた肝付氏の伴姓頴娃兼洪が家臣の津曲兼任に指宿城を攻めさせ攻略し津曲氏を地頭とした。一方で薩州家島津実久が伊地知重茲を地頭にした。天文 4 年（1535）、頴娃兼洪は、島津忠良と結んで実久勢を攻め落とし、頴娃領とした。以後天正 16 年まで指宿・頴娃一帯は伴姓頴娃氏の領有するところとなった。

原田城に係る歴史的背景の要点

- 原田名（秋久名）＝指宿氏支族原田氏の本貫地として鎌倉期から文献に明確に登場。
- 指宿氏は南北朝期に南朝方として活発に軍事行動。
- 室町期には島津氏・頴娃氏・禰寝氏・奈良氏などが指宿城・揖宿郡の支配を争う。
- 戦国期には頴娃氏が指宿・頴娃をほぼ一体として支配する体制が確立。

【平安末期～鎌倉初期】

	指宿地域	山川地域	頴娃地域
～12 世紀末	指宿氏（揖宿郡司） （原田名＝支族原田氏）	指宿氏勢力圏	頴娃氏 （在地武士）

【鎌倉中期】

1284	原田四郎忠俊が原田名を子に分割
1285～98	忠俊が異国警固番役に出仕（御家人）
1299	秋久名＝原田名（禰寝文書）

【南北朝期（14世紀中頃）】

1337～40　指宿氏（南朝方）　指宿氏（南朝方）　頴娃氏（北朝寄り）
　　松尾城を本拠　郡内で度々の合戦　三条泰季の薩摩上陸

【室町前期（14世紀後半～15世紀前半）】

1381　揖宿郡が頴娃氏に宛行われる（島津氏久）
1411　奈良美作守が松尾城入城
1412　原田八丁が禰寝清息に宛行
1469　奈良氏が島津久豊に敗北

【室町後期（15世紀後半）】

1471　揖宿郡が再び頴娃氏へ
　　指宿：喜入頼久　山川：頴娃氏勢力　頴娃：肝付兼政が頴娃城築城
1474　島津忠康が禰寝氏・頴娃氏に敗北

【戦国期（16世紀）】

1525　頴娃兼洪が指宿城を攻略 → 津曲氏を地頭に
　　指宿：頴娃兼洪　山川：頴娃氏　頴娃：頴娃氏（伴姓）
1535　頴娃兼洪＋島津忠良が実久勢を撃破
　　→ 指宿・山川・頴娃が伴姓頴娃氏の領有へ

【天正期（16世紀後半）】

～1588　指宿・山川・頴娃の三地域すべてが伴姓頴娃氏の支配

時代	指宿	山川	頴娃
鎌倉	指宿氏	指宿氏勢力圏	頴娃氏
南北朝	指宿氏（南朝）	指宿氏（南朝）	頴娃氏（北朝寄り）
室町前期	奈良氏 → 島津久豊	奈良氏	頴娃氏（郡宛行）
室町後期	喜入頼久	頴娃氏勢力	頴娃氏（頴娃城築城）
戦国前期	頴娃兼洪 → 津曲氏	頴娃氏	頴娃氏
戦国後期	伴姓頴娃氏	伴姓頴娃氏	伴姓頴娃氏

3　原田城の縄張構成

南北約 400m、東西約 200mの城跡と考えられるが、未踏査ながら南東側へ城域は広がる可能性もある。最も高い所が標高約 80m、シラスの火山灰台地を基盤として東西には浸食谷が形成され、やや急峻な渓谷を成している。北東側はやや緩やかに下り段をもつ曲輪状の区画が幾重にもみられる。大手は北東側にある

琴平神社あたりが想定されるが記録はない。

原田城の最も高い箇所が空堀で区切られており、二つの曲輪をそれぞれAとBとした。主郭はこのいずれかと想定されるが、曲輪AがBよりわずかに高所であることと虎口を伴う。曲輪Bは北側の麓や海への展望が利くことと屋敷を構えることの可能な広さがある。いずれも当城の主要な曲輪であるには違いない。加えて、主要な曲輪と想定される箇所をⅠ～Ⅹとした。そのほかにも小規模な曲輪、例えば腰曲輪・帯曲輪、空堀、虎口、土居（土塁）などの重要な遺構が構築されている。一つ一つの遺構の配置した考えを捉えることは難しいが、縄張図から見ると主に2方向からの寄せ手が想定される。一つは東側の谷部からと北側からが想定される。特に東側の谷部からの侵入に備えて土塁や曲輪、段が築かれ防備を意識している感が強い。北東側の琴平神社のある場所は城の突端部の櫓台と考えられいち早く寄せ手と接触する場所と考えられる。そのため空堀を備えたと考えられる。

4．おわりに

この城の築城者や城主はだれなのか、古くは平姓指宿支族原田氏の築城なのだろうか。その後、歴史的な経緯を経て様々な権力者がこの城に係り、改修されたと想定される。それが島津氏なのか、禰寝氏なのか、伴姓穎娃氏なのかは現段階では記録が少ないため結論はでないが、また縄張から想定していくにも限界がある。曲輪内の試掘調査を実施して出土する遺構と遺物から、手掛かりを探ることができればよいのだが、これからの発掘調査に期待したい。さらに中世城郭の縄張図による記録調査と僅かな史料を手掛かりに城郭研究者をはじめ文献・考古学の多くの研究者からの解明のためのご協力をお願いしたいところである。

参考文献

上田耕・大山勇作 2022「指宿市原田城跡の縄張構造について」『地域考古学の可能性Ⅱ』中摩浩太郎さん退職記念論集　指宿市考古博物館COCCOはしむれ記念論集刊行会

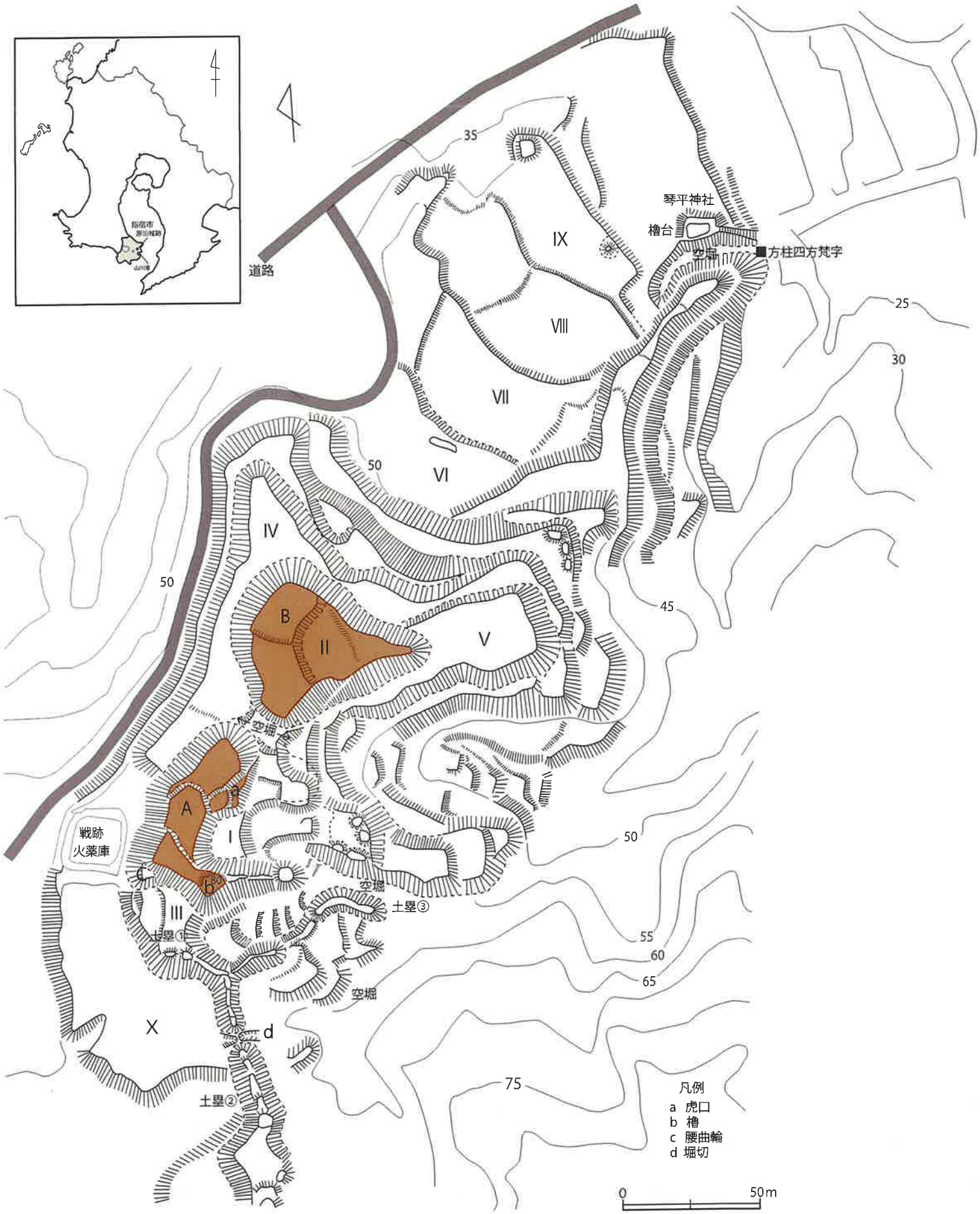
五味克夫 1965「指宿氏士族原田氏について」『鹿大史学』第13号　鹿児島大学

重永卓爾 1989「穎娃城跡の破壊を難ず」『季刊南九州文化』第37号　南日本文化

三木靖ほか 1998「鹿児島県の地名」『鹿児島県の地名』平凡社

三木靖 2003「薩摩国穎娃城の変遷と構造」『穎娃城跡調査報告書』第1集穎娃町教育委会

重永卓爾 2003「穎娃城シンポジウム」『穎娃城跡調査報告書』第1集穎娃町教育委員会


指宿市
原田城跡
山川湾
道路
35
琴平神社
櫓台
空堀
方柱四方梵字
IX
VIII
VII
VI
25
30
50
IV
50
45
B
II
V
空堀
A
I
戦跡
火薬庫
c
b
50
空堀
土塁③
III
土塁①
55
60
65
空堀
X
d
75
土塁②
凡例
a 虎口
b 櫓
c 腰曲輪
d 堀切
0
50m

原田城縄張図

山川港
山川山下町
山川朝日町
N
指宿市
土矢倉城跡
40
50
60
70
80
90
100
市立山川小学校
旧山川小学校
セルフ山川がんばろう館
指宿市山川総合センター
土矢倉団地第一号
土矢倉団地第二号
鹿児島湾
縮尺 1：2500

土矢倉城縄張図